

6 本時案 (第2次 4/4)

- (1) 主眼 身の回りで百分率や歩合が使われている場面に興味をもち、その比較量や基準量を求める活動から割合に対する関心と理解を深めることができるようにする。
- (2) 準備 お買い物セット (お店で売る品物、紙のお金) チラシ ホワイトボード ワークシート 変換表 アラームつきタイマー
- (3) 学習過程

6 本時案 (第1次 3/5)

- (1) 主眼 前時に考えた (分数) ÷ (単位分数) の計算の仕方など既習事項を活かして、(分数) ÷ (分数) の計算の仕方を考え、説明する活動を通して、意味を理解できるようにする。
- (2) 準備 面積図 数直線 (掲示用)
- (3) 学習過程

前時の学習	身の回りで百分率や歩合が使われている場面を見つけ、どのような数量が基準量や比較量になっているかを考え、その中で商品の売値に着目し、計算の仕方考えた。		前時の学習	既習事項を活かして (分数) ÷ (単位分数) の計算の仕方考えた。				
	教師の働きかけ	学習活動・内容		学習活動・内容	教師の働きかけ			
練習する	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを準備し、前時に学習した計算の仕方の定着を図る。 A, C: 定価×割合=売値 B, D: 定価×(1-割合)=売値 ○求める公式を板書し、既習の(もとにする量×割合=くらべる量)を活かして求めることができることをおさえておく。 ●評価イ (ワークシート) 	<p>1 4枚のチラシから、どの商品が一番安いか予想し、計算する。</p> <p>定価500円で</p> <p>A 定価の40%で売る。</p> <p>B 定価の40%引きで売る。</p> <p>C 定価の3割で売る。</p> <p>D 定価の3割引で売る。</p>	<p>1 問題文を読み、立式し、本時の学習課題を確認する。</p> <p>2 $\frac{3}{8} \div \frac{2}{5}$ の計算の仕方をさまざまな方法で考える。</p> <p>・$\frac{1}{2}d1$ でぬれる面積をもとに考える。</p> <p>$\frac{1}{2}d1$ は $\frac{2}{5}d1$ の半分なので $\div 2$ をし、</p> <p>$1d1$ は $\frac{1}{2}d1$ の5倍ぬれると考え、既習の (分数) × (整数) で処理</p> <p>・わり算の性質を使って、わる数を整数になるように式を変形して考える。</p> <p>・通分して考える。</p> <p>3 自分の考えた方法を説明する。</p> <p>・式を板書して</p> <p>・数直線を用いて</p> <p>・面積図を用いて</p> <p>4 本時の学習で考えた方法で練習問題を解く。</p> <p>$\frac{5}{8} \div \frac{2}{5}$</p>	<p>○考えが浮かびにくい場合は前時と同じ場面ではペンキの量が $\frac{1}{2}d1$ から $\frac{2}{5}d1$ に変わっただけであることを気づかせる。</p>	つかむ			
		<p>バーゲンのチラシを作ろう</p>		<p>2 チラシ作り (問題作り) を行う。</p> <p>・チラシ (問題) を用紙・ホワイトボードに書く (式と答えを用意しておく)</p> <p>商品の定価は1000円以下にする。</p> <p>・0%で売る</p> <p>・0%引きで売る</p> <p>・0割で売る</p> <p>・0割引で売る。</p>		<p>○とまどいを感じる場合は前時の学習での考え方をヒントに考えさせたり、数直線、面積図を用いて考える方法を指示したりする。</p> <p>○「困ったときのヒント君」を用意し、ヒントをもとに自分で方法を考えることができるようにする。</p> <p>○一つの方法で解決できた場合、他の方法でも解決できないかを考えさせる。</p> <p>○調べた結果を分かりやすく発表できるように移動黒板を活用する</p> <p>●評価ア (板書)</p>	考える	
	つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ○百分率や歩合を割合に直すことが苦手な児童のために変換表を黒板に掲示する ○問題作りが苦手な児童のために数字や言葉を入れるだけで、簡単に問題を作れるワークシートを用意する。 ○早くできた児童には他の問題を作ったり友達に作り方を教えたりするように指示する。 ●評価ア (ホワイトボード) 		<p>3 「お買い物ぴったんこゲーム」をする。</p> <p><ルール></p> <p>・1回のお買い物タイムは2分。2人が3つの店をできるだけ回る。順番に売る側、買う側になる。(5回繰り返す)</p> <p>・買う側は買いたいものの問題を解き、正しい答えと引き換えに商品进行もらい、お金を払う。そのとき、売る側はお金を受け取る。</p> <p>・最初の所持金は1人1500円として上手に売り買いのバランスをとって最後に合計設定金額1000円が一番近かった人が勝ち。</p>		<p>○調べた結果を分かりやすく発表できるように移動黒板を活用する</p> <p>●評価ア (板書)</p>		考える
	考える	<ul style="list-style-type: none"> ○時間を守って自分たちで進めることができるようにアラームつきタイマーを用意し、リーダーに管理させる。 ○答えが上手に出せない児童には、公式に戻って計算できるように、板書を見ながら解くことを促す。 ○正しく式と答えが出せているか確認し、児童のレベルに合わせて、がんばって正しく解いたことを賞賛する。 ●評価イ (用紙) 		<p>4 本時の授業の感想を書き、合わせて、他にも身の回りで百分率や歩合などが使われている場面を探し、ノートに書く。</p>		<p>○説明するときどこを工夫しているかについて発表させることで、新しく出会った計算でも少しの工夫により、既習の計算で処理できることを強調し工夫することのよさを意識させる。</p> <p>○面積図で説明する場合で、説明することにとまどいがあるときは前時に説明した面積図と対比させ色の濃い部分に着目するよう助言する。</p> <p>●評価イ (発表)</p>		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に見つけたものと合わせて振り返ることにより、百分率や歩合が、生活に身近なものであることを意識させる。 ●評価ア (ノート) 		<p>○練習問題を本時の学習で考えた方法で解くことにより、定着を図るとともに、次時の学習に活かそうとする態度を育てる。</p> <p>●評価イ (ノート)</p>	練習する				
次時の学習	割合を求める練習をし、理解を深める		次時の学習		面積図を用いて、説明する活動をふりかえり、(分数) ÷ (分数) の計算の仕方をまとめていく。			

(4) 評価

- ア (関) 大安売りゲームに意欲をもって取り組むなど、身の回りで百分率や歩合が使われている場面に関心をもち、その基準量や比較量を求めようとする。
- イ (知) 百分率や歩合から、商品の売値を正確に求めることができる。

(4) 評価

- ア (関) 既習の事項をもとに (分数) ÷ (分数) の計算の仕方をさまざま考えようとする。
- イ (考) 説明する活動や練習問題を通して (分数) ÷ (分数) の計算の仕方を考える。